

# 防災会20年の歩みとエレベータ対策

今回は2012年までを振り返りました。今回も防災活動と管理組合事業と合わせてお伝えします。

**2013年**1月 安否確認マグネットシート製作と玄関ドア役割分担シールをリニューアル、もしもの時の安否確認短縮化と防災力の向上を図る。『緊急！池上彰と考える巨大地震。その時、命を守る為に』出演他、数々のメディアに防災活動が取り上げられる。12月、防災2号井戸イルミネーションをスタート。

**2014年**『過疎と都市への集中の両極化が進む中でコミュニティづくり』研究会に参加。7月、国宝鶴林寺で防災コラボ『鶴林寺移転の謎から黒田官兵衛』を企画し楽しい防災活動を開催。

9月、毎日放送「ちちんぷいぷい」に『防災マンション』出演。将棋加古川清流戦の部屋で



**2015年**3月、内閣府政府広報『みんなのちからを、防災の力に』に掲載される。情報発信手法として防災会が『Twitter』開始。南海トラフ地震を想定し『ゲームを使って防災訓練』開催。この年にスタートした園芸部による『はるかのひまわり』植栽や沖縄から届いたゴーヤの種から『学ぼうゴーヤ防災』として特徴ある防災活動。9月、NHK防災の日ラジオ特集『防災プレゼンバトル!地域の力で命を守れ』に出演。

**2016年**1月 防災1号井戸用発電機の水害対策低床リフター導入。4月14日・16日と連続して熊本県熊本地方を震源とした最大震度7の地震発生。4月20日、グリーンシティでの災害発生時災害対策本部や避難拠点となる『集会室の耐震化・安全対策検討』を開始。7月、各戸玄関ドアの対震化検討を開始。9月より総務省消防庁『自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会・自主防災組織の手引作成』に参加。

**2017年**1月 関西テレビ「みんなのニュースワング」に『防災活動にはコミュニティが重要』で出演。3月、各戸玄関ドア対震化完了に合わせて玄関ドア役割分担シールをリニューアル。7月、緊急時の避難路確保及び土手の花見実践事業としてB棟西側水路上に『防災通路』が完成。集会所耐震化として集会室の天井を撤去し地震時の天井落下防止を対策。10月、エレベータ点字シールをリニューアル。11月、『地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰』を賜る。

**2018年**2月 防災会設立20周年記念として『もしもノート』制作。3月、地方自治法施行70周年記念表彰記念樹を植樹。全エレベータに『防災EV椅子(緊急用トイレ他)』を設置。現在進行中の、エントランスドアの自動ドア化。防災会(自衛消防隊)組織図改編で実状に合った組織へのリニューアル検討。9月にはエレベータ緊急対応訓練も開催予定です。

6月18日7時58分、大阪府北部を震源として地震が発生。地震の規模はM6.1。最大震度6弱を大阪府大阪市北区・高槻市・枚方市・茨木市・箕面市で観測。震源が浅いということで大規模地震にもかかわらず被害エリアが狭い範囲に集中。地震による被害の中で、ビル設備管理大手3社が把握しているだけでも約4万5千基のエレベータが停止。このうち数千基が2日経っても停止状態。エレベータに人が閉じ込められた件数は339件となり、閉じ込められた時間は3時間程度を要したものもあった。実際マンションでエレベータは「高齢者や障害者に欠かせないインフラ。早期の対応が必要だ」と訴えられているが、復旧には時間を要する。これには理由がある!

日本エレベータ協会によると『最優先するのはエレベータ内に閉じ込められた人の救出ですが、確認には順位があります。まず病院などの建物、行政機関が入る公共施設、高さ60メートル以上の高層住宅の順で復旧、一般のマンションは最後になります』とのこと。



グリーンシティのエレベータは、2008年のリニューアル工事により、地震の初期微動を検知して自動的に最寄り階に停止し開扉、停電時地震管制運転予備電源や遠隔監視がある。しかし、震度5以上の場合、技術者による点検が必要になる為、通常通りの運行にはかなりの時間を要することになる。運行には時間がかかっても辛抱すれば良いことだが、エレベータに閉じ込められてしまうこととは、少々話が違ふのです!

直下型地震の場合、いくら最新式エレベータでも、初期微動の検知と同時に「大きな揺れが襲う」。この場合、最悪は途中階停止『閉じ込め』が発生します。

その場合、『あなたならどうしますか?』。海外映画の見過ぎで「天井を開けて脱出する」と思っている人が未だにいますが、日本のエレベータ天井は点検口であり、内側からは開きませんし、天井からの脱出は危険極まりない常識はずれの行為です。絶対にしてはいけません!では、どうすればよいのでしょうか?

答えは!『再びエレベータが動き出し最寄り階で停止しドアが開いたら避難』または『外部からの救助』しかありません。でも、どちらも時間を要します。

グリーンシティでは「もしもの対応」としてエレベータ内に防災EV椅子が設置されています。緊急用トイレやライト・ラジオ等様々。使用方法は、防災訓練やポスター、防災会ホームページで確認をしておきましょう。一度の「学び」で安心したエレベータの利用が可能となります。次回も引き続き、大阪府北部地震から災害後のライフライン対応を検証します。

